

ニュージーランド 北島 トンガリロ・アルパイン・クロッシング 山行報告書

日 程：2025 年〔令和 7 年〕2 月 3 日

コース：トゥランギ宿→ケタタヒ(Ketetahi)乗車場所[送迎バス乗車]→マンガテポポ(Mangatepopo)駐車場
→トンガリロ・アルパイン・クロッシング→ケタタヒ乗車場所〔8 時間 50 分行程〕→トゥランギ宿
参加者：三栗五月・岡村眞由美・岡村繁雄 他 2 名

2 日、トンガリロ・エクスペディションズのホームページ〔<http://www.tongariroexpeditions.com>〕より
6 時 30 分発のシャトルバスを予約。（メールで 30 分前に現地に集合との指示あり）

3 日、トゥランギのアパートメントを、真っ暗な中 5 時出発。

現地は真っ暗だったので他の車の後を追って入った駐車場が、トンガリロ・クロッシングの他の送迎業者の専用駐車場らしく追い出されてしまった。仕方なくクロッシング終了点の駐車場へ移動し待っていると、レンジャーの車が巡回してきたため事情を話したところ「ここは乗車場所ではない」とのことで、46 号線の入口付近まで先導してくれてた。

おそらく、乗車場所が分からないで迷うケースが多いのであろう。

何はともあれレンタカーを道路脇（駐車禁止でない路肩）に駐車して、6 時 30 分発のシャトルバスに乗り込むことが出来た。やれやれである。

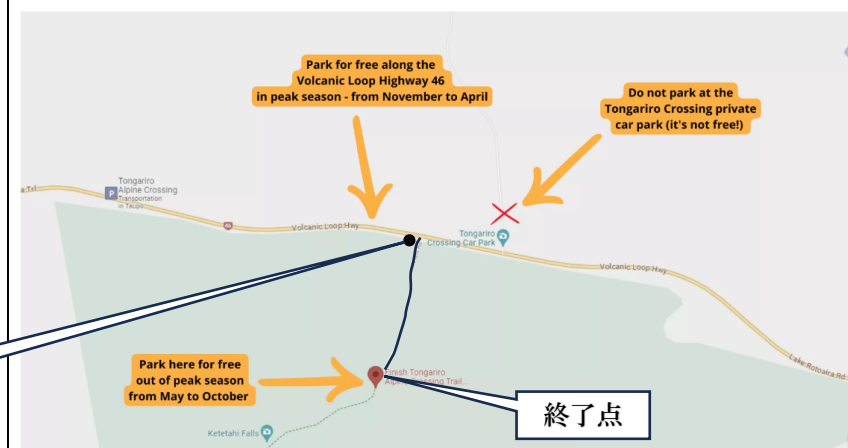
後日、ホームページを確認すると乗車場所の説明書きがあったが、初めての現場では、なかなか難しい。

送迎バス駐車場所

トンガリロ交差点の駐車場はどこにありますか？

トンガリロクロッシングは、マンガテポポ駐車場から始まり、ケタタヒ駐車場で終わります。

最善の選択肢は、交差点の終わりに近いケタタヒ駐車場に車を駐車し、ケタタヒから片道シャトルサービスを利用して、マンガテポポの交差点の出発点まで行くことです。



トンガリロ・エクスペディションズのホームページより



レンタカーを 46 号線沿いの路肩に駐車



ケタタヒ送迎バスに乗り込む（左の奥が終了点）



マンガテポポ(Mangatepopo)駐車場



マンガテポポを出発〔7:10〕

曇りで歩くには、ちょうど良い気温である。軽装の登山者にどんどん抜かされて行く。
登山道は他の場所と同じで、かなり整備されている。





前方 トンガリロ



足場の悪い箇所は、整備されている



トンガリロを望む



要所要所に設置されているトイレ（マンガテポポへ 6.4km・ケテタヒへ 13.7km 地点）



ガスが出てきたが、要所要所にポールが建ててあり迷うことは無い



レッド・クレーター手前で一瞬ガスが切れて、ナウルホエ山〔2,291m〕を望む



急斜面を下りながらビューポイントで記念撮影

約4時間で、このコースのもっとも標高が高いレッド・クレーターのピーク(1,868m)を越えた頃には、運よく雲が少ずつ切れてメインのエメラルド・レイクが眼下に見えてきた。
エメラルド・レイクが望める場所は、絶景を写真に撮ろうと多くの登山者で渋滞。
真っ青な湖と山をバックに写真を撮ろうと、結構な時間を過ごした。





エメラルド・レイク [望遠]



多くの登山者が絶景を満喫していた



奥がエメラルド・レイク



池のそばで、大休止

エメラルド・レイクを通過後
平坦な登山道から登ったところ
に、ブルー・レイクが目
の前に広がる 〔望遠〕





後方右 レッド・クレターのピーク、左の鞍部にエメラルド・レイクがある



ブルー・レイクにて



ブルー・レイク付近よりレッド・クレーター方面を望む



昔の噴火の痕跡だろうか？〔ブルー・レイク付近より〕



ロトアイラ湖を望む

ブルー・レイクを通過後すぐにトイレがあり、ここから長い下りである。
右前方にロトアイラ湖(Lake Rotoaira)が見えてきた。その後ジグザクの長い下りとなる。
トイレとトイレの間隔が概ね1時間の行程だが、疲れていることもあり長く感じられた。

このあたりに車を止めていた



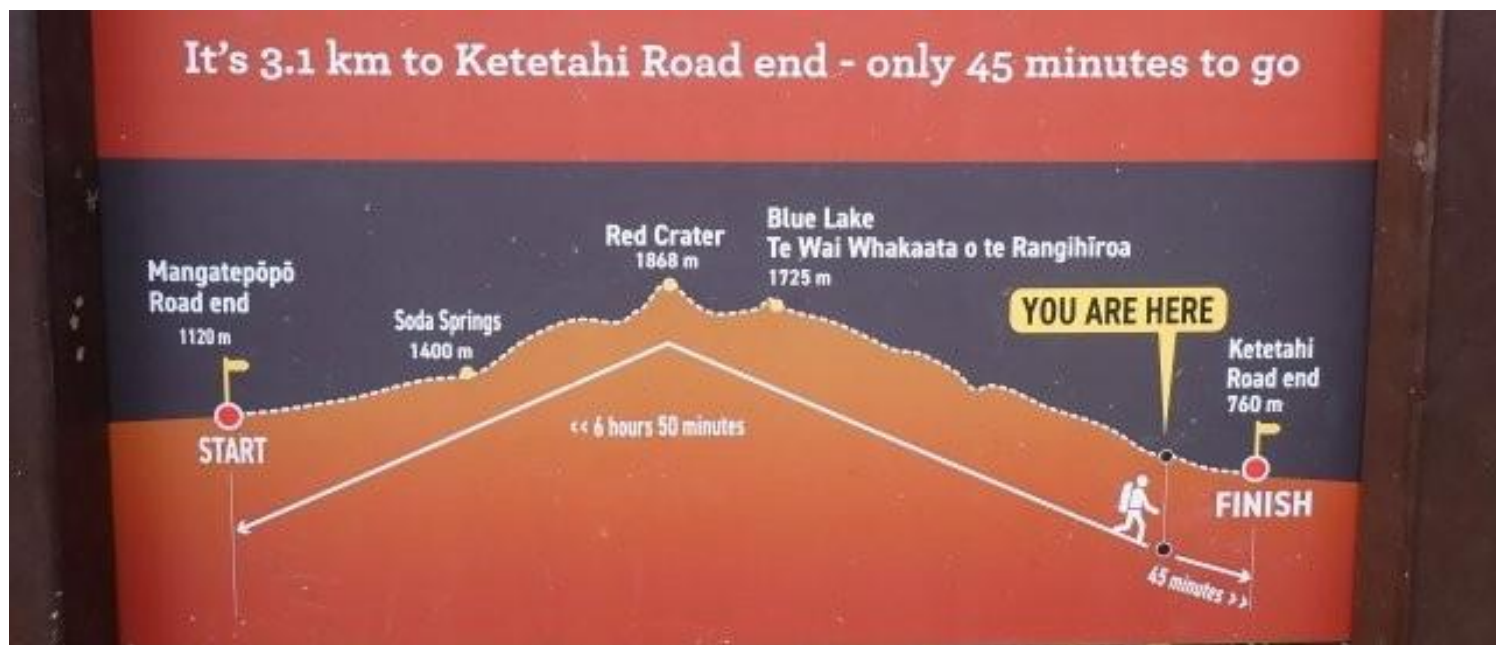
ジグザクの長い下り



あと1時間位



デージー？



ケテタヒ Road 終点まで760m（少なくとも45分）の地点〔掲示板より〕



ケテタヒ Road 終点、ここより46号線沿いまで15分を要した
〔後方には、他の送迎会社のバスを待つ登山者〕



Department of Conservation Te Papa Atawhai パンフレットより

今回の山旅の第一目標であるトンガリロ登頂の件をインフォメーションで尋ねると、トンガリロの山頂は登山禁止ではないものの、マオリの聖地との理由で周辺のピークも含め、登れないとの回答であった。ニュージーランド政府のホームページには、「山頂に登ることは違法ではありませんが、地元のイウィ〔マオリ語の iwi という語は「人」または「国家」を意味する〕とこの土地や山とのつながりを尊重し、山頂に登ることは控えてください。」と、記載されてあった。

色々と山の地図を調べると、破線でルートは記載されているが、現場ではっきりとしたトレースは確認できなかったし、Mt.トンガリロや Mt. ナウルホエへ登る登山者も見かけることはなかった。

コースタイム 7～8 時間のところ 8 時間 50 分をかけて無事、ケタヒ乗車場所へ全員歩き通すことができた。

皆さんお疲れさまでした。

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura Photo presented by S.Okamura